

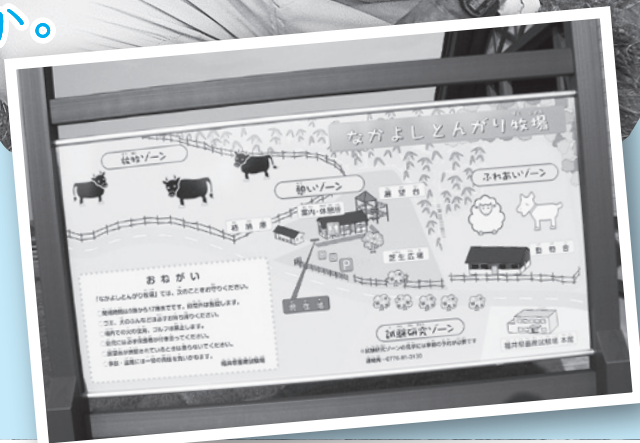
職場探訪

福井県畜産試験場

やぎやひつじとふれあい
楽しいひとときを過ごしませんか。

県の試験場というと、県の職員が専門的に試験研究をしているところであり、一般県民が訪れてもおもしろくない、というか、一般県民が訪れるような場所ではないというイメージがありますが、実際に訪問してみると、意外と一般県民が楽しめる場所でした。

今回は、そんな試験場の一つである坂井市三国町の福井県畜産試験場を訪問し、企画支援室の八木保善さんにお話を伺いました。



—畜産試験場は、どのようなことをしているところですか。

福井県における畜産技術開発と現場ニーズに応えた研究を進めています。

主に、肉牛・乳牛の受精卵の研究、豚・採卵鶏にかかる地域資源（米・大麦・そば等）を活用した飼養管理技術開発を行っています。

—八木さんが担当する仕事の内容を教えてください。

試験研究の調整・成果の普及および県内2つの県営牧場（奥越高原牧場・嶺南牧場）との業務の企画調整と広報に関する業務を行っています。

—八木さんが所属する企画支援室はどのような背景で設置されたのですか。

2009年4月から、畜産試験場と県内2つの県営牧場（奥越高原牧場・嶺南牧場）が一体となる機構改革がありました。予算要求等、組織内部の調整や普及指導機関など外部組織との連絡調整窓口一本化などの必要性により設置されました。

—仕事の楽しさや苦勞を聞かせてください。

今年4月24日に、畜産試験場内にふれあい施設「なかよしとんがり牧場」がオープンしました。開所式をはじめ、子羊の導入、愛称公募、夏のふれあいイベントの実施など、7月末まで、大変激務でした。（おかげで、4月から5kgやせてメタボ解消できました）来場者に畜産試験場っていいところですねと言われることが一番うれしいですね。

—ふれあい施設「なかよしとんがり牧場」ではどのようなことが見学できるのですか。

試験研究に活用する家畜は、口蹄疫など家畜防疫上の制約があり、近づくことができません。その代わりとして、やぎ、めん羊などの動物を飼うことにしました。牧場では、その、やぎ、めん羊に直にふれあったり、エサ（牧草）を食べさせたりすることが出来ます。また、芝生広場や休憩所を整備しましたので、のんびり過ごすことが出来ます。遠くからよく見える、「赤いとんがり屋根」の展望台がシンボルとなっています。

—オープンまでの苦勞話があればお聞かせください。

農林水産省の公共補助事業で、ふれあい施設を整備したため、2009年度の計画策定や改良造成工事では、様々な調整に苦労がありました。

「つい最近の7月21日には、『わくわく牧場探検隊』が開催されたようですが、どのようなイベントだったのですか。」

主に小学生を対象に、畜産試験場の研究紹介の他、地元農産物の試食・販売、地元子ども太鼓、乗馬体験、若手研究員による科学実験教室などを行いました。

当日早朝は、隣町で道路が水びたしになるなどの大雨で心配しましたが、昼前に小雨が降っただけで、逆に涼しく、1,000名以上の皆さんが来場され、十分楽しんでいただけたと思っています。

「これ以外にも、畜産試験場(企画支援室)で実施された特徴的なイベントを紹介してください。」

小学生や地域住民を対象にふくいポークを使った手づくりソーセージやプリン作りなど畜産物加工体験教室を年5〜6回実施しており、毎回、好評です。

「こうしたイベントを開催するきっかけは何だったのでしょうか。」

県の試験研究機関はどちらかというと、その業務が一般県民には見えにくいいため、特に地元市町にお住まいの方々には、畜産の理解と試験場の役割について広く知っていただくよう始めました。

「イベントを実施することによりどのような効果が表れましたか。」

イベントの運営には地元の農家さんにも手伝っていただくことになり、試験場の仕事は地域の皆さんと共に進んでいます。また、このようなイベントを利用して、福井県畜産物のPRや畜産試験場の試験研究の内容、そして、手伝っていただいている畜産農家の現状などを参加された皆さんに知っていただき、福井県の畜産PR効果が得ています。

今年、素晴らしい施設がオープンできたので、イベントや、小学生や幼稚園の遠足の利用などを通じて、県民の皆様に親しまれる畜産試験場にしていきたいです。

「食の安全安心についての取り組みはいかがですか。」

現在の家畜の飼料は輸入飼料に片寄りがちですが、福井にはおいしい米をつくる田んぼが多いので、転作田の活用を図ったり、飼料用イネ、飼料米の利用を進め、少しでも、県産飼料の利用度を高めていくことが安全安心につながるものと思っています。

「今後、畜産試験場はどのような試験場を目指していくのですか。」

生産農家の方々には、低コストでおいしい畜産物(牛乳・お肉・卵)の生産を、県民の皆様には、さらに、安全安心をお届けできますよう地道に業務(研究)を進めていきたいと思っています。

「最後に、県民・市民の方にメッセージがありましたら。」

予算・研究員が年々少なくなってきていますが、研究員皆で知恵をしぼり、精一杯業務に努めています。皆様に愛され、親しまれる畜産試験場になるようこれからもがんばってまいります。

(7月25日インタビュー)



地元子供太鼓



まりちゃん獣医



乗馬体験



ロールお絵かき



◎活動の記録（2012年3月～）

12年3月9日	第20回定期総会（あわら市）
12年5月9日	第1回県自治研センター・県本部自治研推進委員会合同会議
12年5月25日	全国環境自治体勝山会議（27日）
12年5月30日	第1回県自治研センター20周年記念事業実行委員会
12年6月6日	第2回県自治研センター・県本部自治研推進委員会合同会議
12年6月12日	丹南自治研センター チェルノブイリ原発視察報告会（越前市）
12年6月22日	第1回県自治研センター「自治研ふくい」編集委員会
12年6月30日	福井県福祉自治研集会（福井国際交流会館）
12年7月3日	第2回県自治研センター20周年記念事業実行委員会
12年7月13日	子育て新システム学習会 丹南自治研センターなどと共催（越前市）
12年7月21日	県本部自治研集会「はじめよう自治研」（鯖江市うるしの里）
12年8月1日	ちよっとって講座（福井国際交流会館）
12年8月24日	第3回県自治研センター・県本部自治研推進委員会合同会議

◎編集後記

「自治研ふくい」の発行回数が少ないのではないかと。2月の総会でそんな叱咤激励の声をいただき、今年度は一回でも多く発行したいと努力中です。

さて、昨年の福島原発から一年半が過ぎ、国会や政府の事故調査報告書も発表されていますが、肝心の部分である「どのような経過と実態の中で、あのような事故に至ったのか」その点については今も闇の中、殆ど解明されていません。また復興への対策も人々の暮らしも遅々とした歩みです。それでも、県内の大飯原発は再稼働されました。安全が確認されたと首相も知事も町長も言っています。その言葉に絶対の自信と責任を持つての発言なのでしょうか？

今号には、私たちの仲間である三名の議員による「チェルノブイリ視察」の座談会を企画しました。26年前のチェルノブイリ原発事故から日本の政府や原発関係者は何を学んでいたのか。

三名の話では何も学んでいなかったのではないかとこの感じが強く伝わりました。今からでも日本人全体が学ぶことが多いのではないかと思います。

県内の自治研活動も少しずつ動いています。7月の「はじめよう自治研」では幾つかのレポートが報告され、10月の神戸での全国自治研集会にも県内から多くのレポートが発表されます。皆さん、全国の先進事例を学びに神戸へ行きましょう。

「学ぶべきこと」に、私たちはもっともっと前向きに取り組みたいものです。

編集担当（藤）

◎投稿募集！

「自治研ふくい」では、皆様からの投稿を募集しております。

自治体の動きや町の活動、職場での話題など、事務局までお気軽にお寄せください。

福井県地方自治研究センター会員募集

自治研センターの会員を募集しています。ぜひ積極的な加入をお願いします。

個人会員 1年間 2,000円 団体会員 1口 5,000円

●活動内容と会員サービス

1. 当自治研センターが主催する各種講演会、学習会について会員の皆さんにご案内を差し上げます。
2. 会員が集会や講演会をされる場合、講師のご紹介や会場の斡旋を行います。
3. 住民本位の地域政策を策定していくため、課題別の研究会を設け、活動を進めます。
4. 当センターの活動経過や各種情報、研究成果等を掲載する「自治研ふくい」を発刊し、会員にはご自宅へ無料で送付します。

【申込先】 〒910-0802 福井市大和田町38-30-3
自治労福井県本部内 TEL(0776)57-5800 FAX(0776)57-0690
E-mail:f-jichiken@ubcnet.or.jp